

むきぼんだ花だより 1月

2018. 1. 13

◎ツルウメモドキ(蔓梅)、ニシキギ科・

ツルウメモドキ属、落葉つる性木本。雌雄異株。○別名：ツルモドキ。東アジア一帯に自生し、日本では北海道から沖縄まで全域に分布する。日当たりの良い山野や林などに生育し、都市部の植え込み等にも見られます。○名前の由来：つる性で赤い実がモチノキ科のウメモドキ(梅)に似ているから。また、ウメモドキは多くの枝を出す樹姿や葉の形が梅に似ていることから付けられています。○花言葉：大器晩成、真実、開運。～「大器晩成」は、色香から初夏に花が咲いてから、緑の葉が黄色く熟し、赤い仮種子に包まれた種子が現れるまでの期間が長いことから付けられた様です。●葉は他の植物などに左から右巻きにからまりながら巻き登り、その木を覆うほどにも茂ります。葉は、幅の広い卵形から倒卵形で名前の通り梅やウメモドキに似ていて秋には黄葉し落ちます。花は5~6月頃に黄緑色で数cm位の地味な小花を集散花序に付けます。雌花は中心に3裂した柱頭が付き、果実は緑色から秋には黄褐色に熟し3つに裂開して、鮮やかな橙赤色の仮種皮に覆われた種子が現れます。觀賞の対象は、周りの木が葉を落とした時期に、真っ赤な実と黄色い仮種皮のコントラストの美しさです。果実は、葉が枯れても色鮮やかさを保つため、これが美しいので生け花など、リースやインテリアの装飾用素材として多く使われます。併し、北アメリカでは薬化用として導入し、装飾用にも使われましたが、野生化し外来種として各地に広がり、森林を覆う等の問題となっているそうです。★撮影日：2018, 1, 13, ★撮影場所：赤生の館前南側草地



ツルウメモドキ(蔓梅)、ニシキギ科・ツルウメモドキ属



アオモジ(青文字)クスノキ科・クロモジ属



ツルウメモドキの果実(赤い実)、アオモジ(青文字)の果実(赤い実)の比較



ツルウメモドキ、アオモジ(青文字)の果実



雪穴住居(雪穴) (Yatai) 撮影：2018, 1, 13.



ヤマノイモ(山の芋)、ヤマノイモ科・ヤマノイモ属



タブノキ(輪の木)、クスノキ科・タブノキ属

◎ヤマノイモ(山の芋)、ヤマノイモ科・

ヤマノイモ属、つる性多年草。または、芋として発達した根茎のこと。古くは「薯蕷」と書き「ヤマノイモ」と読みました。雌雄異株。○別名：ジネンジョウ(自然生)・ジネンジョ(自然薯)・ヤマノイモ(山芋)。日本原産で北海道南部から日本全土・朝鮮半島・中国に分布する。○花言葉：恋の消息「緑色の穂状に沢山つけた花が殆ど開かないことから付けられたそうです。」・気長「ジネンジョが地中でゆっくりと大きくなり、1本掘るのにとても時間が掛かることから。」★ヤマノイモは細長いハート形の葉をもち雌株は、夏葉腋から穂状の花序を付けます。果実は大きな3つの葉がありその腋の中に種子を含んでいます。種子の他に葉腋に発生するムカゴに依って栄養生殖もします。地下には芋があり、真直ぐ伸び1mを越すものもありますが、地上の成長に従って芋は縮小して秋には新たな芋に置き換わります。収穫期は秋の落葉の頃に赤土土層で掘れた芋は風味が良いと云われます。ムカゴは雌株・雄株共に付け(ムカゴはクローンです)、種1cm程の球状から3cmに達するものもあります。○野山に自生している自然薯(山芋)の他にも様々な種類があり大きく分けると、長い(大葉)・丸い(小葉)の3種類に分けられます。長いものは、中国産と云われ一般に山芋として販売されている芋等です。大葉は、熱帯地方の原産で九州で少量栽培されている大型の芋です。また、よく似た蔓性植物にオニドコロ(鬼野老)があります。雌雄異株で、地下に多肉根(芋)があり有毒です。これを食べると、嘔吐・痲痺・腎臓炎などを起こすので注意が必要です。※：ヤマノイモ(山芋)とオニドコロ(鬼野老)の見分け方※山芋にはむかごが出来る、オニドコロには出来ない。山芋の葉は細長目で、オニドコロの葉は丸め。山芋の葉は対生で、オニドコロの葉は互生。山芋とオニドコロでは葉の巻き方が逆、山芋は左巻。★撮影日：2018, 1, 13, ★撮影場所：赤生の館前南側草地。



アオモジ(青文字)クスノキ科・クロモジ属



ヤマノイモの果実(赤い実)、オニドコロの果実(赤い実)の比較



土屋根雪穴住居(土屋根雪穴)と高床倉庫(高床倉庫) 撮影：2018, 1, 13, 2/4



ヤマノイモ(山の芋)、ヤマノイモ科・ヤマノイモ属

◎ナワシログミ(苗代茶黄)、グミ科・グミ属常緑低木。日本の本州南部、四国、九州、中国中部に分布する。海岸に多いが内陸にも生育する。○別名：タワラグミ、トキワグミ。盆栽ではカンギミと呼ぶ。
○名前の由来：苗代を作る頃に薪として食べられるので付いた名前と云われる。
○花言葉：心の純潔 ●樹高2~3mで樹皮は灰褐色。茎は立ち上がるが、先端の枝は垂れ下がり、他の木に引っ掛かって、つる性植物の様な姿になる。よく枝が分かれており、所々に葉がある。葉は長楕円形で長さ5~8cm幅2~3.5cmくらい単葉で厚くて硬く互生している。新しい葉の表面は一面に星状毛が生え白っぽく艶消しに見えるが、成長すると無くなり、濃緑色で光沢のある艶々した新葉になる。葉裏は淡褐色で鱗片が密生し鱗は波状に縞んで裏面に反り返っている。葉先は急鋭頭。開花時期は10~11月ごろ。花は葉の裏面に淡黄褐色で、白い斑点が目立つ花を数個下向きに付ける。花弁が4枚の様に見えるが、花弁は無く萼で、萼筒の先端が4つに分かれて、雄蕊が4本あり星状毛に覆われています。花は特に良い香りが有り、キンキクセイ。(金木澤)に負けない芳香を放っています。果実は子房が花托と合着している偽果で、果皮全体が多肉となった液果です。春4~5月にかけて赤く熟した果実は酸味のある甘さで食べられます。野鳥の好物です。根には放線菌が共生し、空気中の窒素の固定能力があり、この性質に着目して荒地の緑化に利用される事もあります。中国では薬を生薬として「胡頹子」(こたいし)の名で『本草綱目』に記載される性質を「酸、平、無毒、」とし、咳、喘息、咯血、出血、腫疽(ヨウソウ~悪性の腫物)、に効用があるとされています。● ナワシログミは日本に10数種あるグミの1種です。★撮影日：2018, 1, 13, ★撮影場所：洞ノ原地区。



★むきばんだを歩く会★

- 指導：鷲見真幸先生 (鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも。どなたでも入会可能です
- 問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだを歩く会」